

NO.78号

令和7年3月1日

社会福祉法人 春風会 広報誌

発行 社会福祉法人 春風会 理事長 石川三義 〒410-0302 静岡県沼津市東椎路1742-1 ☎ 055(967)1166代 ☎ 055(967)3566 春風会HPアドレス <http://www.shunpuukai.com/>

伊豆中央ケアセンター 獅子舞

社会福祉法人春風会は、昭和51年8月25日に法人が設立認可されてから、今年の8月で法人創設50周年という大きな節目を迎えることになります。春風会という清い泉が湧く井戸を掘られ、法人の礎を築かれたのは、初代理事長石川春男氏であります。初代理事長が私たちに話されていたことの中に、「サービスを受ける人間の立場に立って、人間愛の精神で活動され奉仕の精神を持つて初めて、福祉という困難な仕事が達成に近づいていくのではないか」という言葉を思い出します。福祉の仕事に人間愛を持って奉仕の精神で臨むよう訴えていました。これまで、法人も順風満帆の時ばかりではありませんでした。法人が多くの方々が困難を乗り越えて、今日まで成長できたのは、初代理事長以下多くの先輩職員の不斷の努力と福祉への篤い情熱と崇高な精神があったからだと改めて感謝するものです。

さて、法人創設50周年にあたり、私たち法人は、沼津市原地区にある県営原団地建替えに伴う余剰地に、複合福祉施設の建設を予定しています。法人は、この15年以上に亘り新しく施設整備するときには、常に年代の差・施設間の差を超えて、共に生き、支え合える複合福祉施設を整備してきました。あしたかホームが平成23年新築移転するときには「介護老人施設」あしたかホームに「重度障害児者の生活介護施設」沼津虹の家を合築して、

高齢者と障害児者が共に利用し交流できる福祉施設を整備してきました。また、平成28年度には伊豆市月ヶ瀬に、認定こども園・障害者就労支援施設・老人デイサービスセンター・地域交流センター・みんなの食堂という複合福祉施設「ふらっと月ヶ瀬」を開設しました。法人は、この共生的・複合的総合施設という福祉理念から、令和8年度に建設を予定している原の福祉施設も、「地域密着型高齢者対象のケアハウス」、「住宅型有料老人ホーム」、「デイトレセントー」、「ケアマネ事業所」、「訪問看護リハビリ事業所」、「定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所」だけではなく、地域の子どもや住民、高齢者が集うことができる「みんなの食堂」や「重度障害児者対象のグループホーム」などを合築した複合福祉施設の整備を検討しています。私たちは、これからも真の福祉の在り方を求めて、世代間と障害の枠を超え、人々が心豊かに共存できる複合福祉施設の整備に力を注ぎたいと考えています。

最後に、法人設立50周年にあたり、私たちは、心を新たにして法人創設者の人間愛と奉仕の精神を忘ることなく、福祉への篤い情熱と崇高な理念を受け継ぎ、法人が果たすべき基本的使命と役割をしっかりと捉え、21世紀の今後においても真の福祉の不滅の灯りをともし、地域社会の福祉の向上に貢献していく決意であります。

「法人創設50周年に新たな複合福祉施設を」

社会福祉法人春風会 理事長 石川 三義



理事長報告及び 取り組み方針

**創立50周年を迎えて更なる
法人のブランド力の向上と
地域社会への貢献を**

令和7年度、社会福祉法人春風会は法人創立50周年を迎える。今後も、これまでの多くの先輩・先人たちが献身的に築いてきた法人の社会的な信用度・信頼度・ブランド力を更に高め、地域社会に信頼され貢献できる。

春風会の役職員合同研修会は令和7年1月23日に開催され、石川理事長より令和7年度の理事長報告及び法人の取り組み方針について報告されました。

法人の事業展開等について

法人を今後も目指して行きたい。50年は節目であるが、法人は50周年を境にして、新たなステージを始めて行かなければいけない。令和7年度を変革の年・飛躍の年と位置付け、50年の歴史と伝統から脱皮して新たな歴史を創造していく、新しい事にチャレンジしていく年として、法人の新たなブランド力を構築して行きたい。

法人は令和5年度より定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業と訪問看護リハビリ事業を開始した。この2つの事業は今後も確実に軌道に乗せて地域に貢献して行く大切な事業である。先行して沼津地区で事業展開を進めたが、伊豆地区においても今後必要な事業であると考えている。事業が軌道に乗るまでは時間を使いますが、良いサービスを実施していれば確実に需要は拡大して行く。この24時間の定期巡回事業は、法人設立時の理念である『社会の老人を見取る』

や看取りだけではなく在宅でも24時間の介護やお年寄りを看取るという事が創設以来の法人の使命である。

2点目として、超高齢化の進行、平均寿命・健康寿命の伸びに伴い、益々健康志向が強まっている。介護予防活動・予防的福祉事業が必要になり、デイトレ等の事業ニーズは高まることが予想される。採算ベースの課題はあるが、その様な事業に対する需要があるということを役職員は認識していただきたい。

3点目として、昨年から、県営原団地跡地の余剰地に複合福祉施設整備計画の具体的な検討が進めてきた。地域密着型の高齢者ケアハウスを中心とした複合福祉施設の建設について、準備を進めていく。

4点目として、本年度も、地域介護力の向上と介護人材の養成・確保の為に、介護職員初任者研修事業と介護職員実務者研修事業の2つの事業を継続事業として実施したいと考えている。

5点目として、新規事業が数年後に予定されており、若手職員の人材登用や女性の幹部職員への登用を積極的に実施し、幅いく。

や看取りだけではなく在宅でも24時間の介護やお年寄りを看取るという事が創設以来の法人の使命である。

2点目として、超高齢化の進行、平均寿命・健康寿命の伸びに伴い、益々健康志向が強まっている。介護予防活動・予防的福祉事業が必要になり、デイトレ等の事業ニーズは高まることが予想される。採算ベースの課題はあるが、その様な事業に対する需要があるということを役職員は認識していただきたい。

3点目として、昨年から、県営原団地跡地の余剰地に複合福祉施設整備計画の具体的な検討が進めてきた。地域密着型の高齢者ケアハウスを中心とした複合福祉施設の建設について、準備を進めていく。

4点目として、本年度も、地域介護力の向上と介護人材の養成・確保の為に、介護職員初任者研修事業と介護職員実務者研修事業の2つの事業を継続事業として実施したいと考えている。

5点目として、新規事業が数年後に予定されており、若手職員の人材登用や女性の幹部職員への登用を積極的に実施し、幅いく。

介護職員の負担軽減と 働きやすい職場作り

職員の定着率の更なる向上と離職防止を最優先に考え、職員の健康管理をはじめ体力強化や腰痛予防など、職員との定期的な面談の実施等によるメンタル面のサポート体制や業務の見直し、生産性の向上に取り組み、長時間労働ゼロの実現などを推進していく。腰痛予防や負担軽減のための『持ち上げない介護』『抱え上げない介護』の実現に向け、各種介護機器の導入の検討、入浴機器の見直しによる省力化の実現、更には、デジタル機器の導入・活用により職員の精神的・身体的負担の軽減、ケアの質向上に向け取り組んでいく。

利用者虐待防止及び介護事故の再発防止に向けて

不適切な言動やケアを行なう職員がいた場合、それを見た職員は見て見ぬふりをするのではなく、毅然とした態度でお互いが注意できるような職場環境を作っていく必要がある。常に現場でお年寄りや障がい者の意見や子ども達の声を聞くこと、耳を傾ける事をしていかないといけない。利用者の顔を見ながら対応していくことは忘れてはならない大事な事である。

介護事故の問題は、介護事故はあってはいけないものという認識が職員に欠如しているように思える。事故報告書を提出すれば終わりではなく、なぜ介護事故が起きたのかの徹底的な分析が不足しているため同じような事故が起きている。事故は利用者の生命に関わること。事故が起きないように最善の策を講じ、安心安全なサービス提供する為、介護・看護職員だけではなく、理学療法士や管理栄養士、施設長等も加わり総合的に事故分析を進めて介護事故を防ぐことに努めていきたい。

最後に、昨年法人では各事業の利用者を対象とした『顧客満足度アンケート調査』を実施した。その結果について、利用者が抱えるニーズや問題点、要望や意見を詳細に把握し、今後のサービスの改善と創意工夫に活用して行きたい。今まで高齢者がサービスを受ける立場だったが、これからは高齢者が主体的にサービスを選び、自ら参加していくスタイルのデイサービス等が求められる。法人のデイサービスでも社会の情勢を踏まえ、事業内容の多様化と充実化を図ると共に、地域と連携を図りながら、買い物外出や通院等の移送・移動支援など地域の課題を分析し、実施・協力できることから地域に貢献していくたい。

災害時の協定調印式



写真左より ミールケア(株) 佐藤専務、(社)春風会 石川理事長、(社)信愛会 奥津理事長、伊豆市菊地市長

「私立保育園・私立認定こども園における炊き出し等の災害時支援に関する協定」調印式が1月28日に伊豆市役所特別会議室で行われました。この協定内容は、伊豆市内に地震・風水害・その他災害の発生時において、①認定こども園等に備蓄されている食材などを利用した炊き出し、②炊き出し用食材の委託給食会社からの調達と人材派遣、③食中毒予防に関する衛生指導やアレルギー対応など市民支援の初期対応、④給食室等場所の提供などになり、市と認定こども園等が相互に協力して市民生活の早期安定を図るための協定となります。出席者は(社)春風会石川理事長、(社)信愛会奥津理事長、(株)ミールケア佐藤専務取締役、伊豆市菊地市長が出席し、協定書に署名しました。伊豆市

みはるの丘浮島



みはるの丘浮島では、11月22日、25日に浮島中学校、11月22日に金岡中学校の体験学習の受け入れを行いました。今年は浮島中学校と金岡中学校合わせて10名の生徒が参加しました。

数年前までは、年間20名程の受け入れを行つておりましたが、感染症時期の受け入れ中止や子供達の福祉業界への関心が乏しくなる中、人数は減少傾向にあります。

今回体験された生徒は、初めて介護施設へ訪問する生徒や、自分の祖父母以外のお年寄りとは関わったことがなく緊張する生徒がほとんどでしたが、利用者に一生懸命話しかけ、利用者の話をじっくり聴く姿が見られました。利用者とふれあっていく内に段々と緊張も解れ、各所で笑い声が聞かれていました。

車椅子の体験では、速いスピード

で車椅子を押したり、声を掛けずに入クリニック操作をするとどうなるかなどを経験してもらいました。生徒からは「めっちゃこわい！びっくりする！」と率直な感想をもらいました。利用者に怖い思いや驚かせてしまわないように、また、安心して介護を任せてもらえるようになることを心掛けることが大切だということを学んでもらいました。

利用者の食事の準備では、それぞれの食事形態を実際に見てもらったり、誤嚥しないための水分のトロミはダメにならないように、温かいもの冷たいものと時間経過で固さが変わることなど実際に体験してもらいました。

誕生日の利用者の『お祝い膳』も見てもらい、目にした途端に生徒からは「おー！」と声が上がり、お祝いの言葉を生徒からももらった利用者は満面の笑みを浮かべ素敵な時間を過ごすことができました。

で車椅子を押したり、声を掛けずに入クリニック操作をするとどうなるかなどを経験してもらいました。生徒からは「めっちゃこわい！びっくりする！」と率直な感想をもらいました。利用者に怖い思いや驚かせてしまわないように、また、安心して介護を任せてもらえるようになることを心掛けることが大切だということを学んでもらいました。

利用者の食事の準備では、それぞれの食事形態を実際に見てもらったり、誤嚥しないための水分のトロミはダメにならないよう

中学生による 福祉体験学習

今後もこのような体験学習の受け入れを通して、介護の仕事のやりがいやしさを伝え、この仕事も素敵だと魅力的に思えるきっかけ作りに繋げていきたいと思います。

今年度あしたかホームでは、片浜中学校1年生3名、金岡中学校3年生5名の福祉体験学習の受け入れを行っています。高齢者の生活する施設においてその生活に触れたり、職員の仕事内容などを学んでいたります。各校の福祉教育の一環ですので、福祉

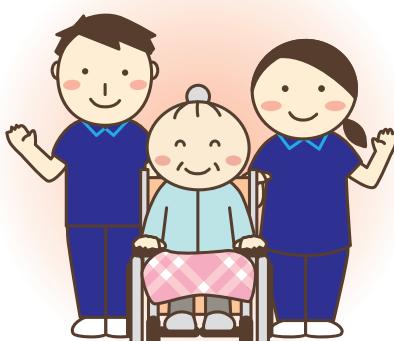
あしたかホーム



今年度あしたかホームでは、片浜中学校1年生3名、金岡中学校3年生5名の福祉体験学習

生徒の体験ではありますが、受け入れる側の施設・利用者にとつても新鮮に感じる事が多くあり、入居者からは「自分もこんな時があったね」「孫と話をしているみたいで楽しかったよ」などと聞かれ、喜ばれています。

コロナ禍以降、施設と生徒たちとのふれあいの機会が大きく減ってしまっています。高齢者や福祉がもつと身近に感じてもらえるように、今後も積極的に福祉体験の受け入れを行っていきます。



介護職員の小学校職業講話

(愛鷹小学校・沼津第三小学校)

職業講話は、沼津市政策推進部地域自治課による男女共同参画推進事業の一環として、市内の小中学校の児童・生徒を対象に、性別にかかわりなく一人ひとりがその個性と能力を伸ばし、将来の夢や進路について幅広く選択できるよう学習の機会を提供することを目的に実施されています。

講師としては公務員だけでなく、男女共同参画推進事業所の職員も参加し、それぞれの仕事の実際を伝えていました。あしたかホームでは数年前より同事業に協賛し、今年度は愛鷹小学校、沼津第三小学校の六年生を対象に講話を行っています。

職員数名を担当者として選定し、施設で行っているケア内容について映像を交えながら紹介したり、利用者への声のかけ方や目線で気を付けている事、車椅子の操作手順などを小学生にもわかりやすく、共感を得られるように丁寧に伝えていきます。車イスを実際に操作してもらう体験では、多くの子が興味津々な様子で体験を希望します。福祉施設が充実するようになり、介護が必要な高齢者と接する機会 자체が減つていてるため、高齢者への接し方や福祉用具などが目新しいのではなくて、ただ生活をしているのではなくて、

いろいろなイベントがあることを初めて知りました」などの率直な疑問や感想が聞かれ、福祉の仕事や施設でのお年寄りの生活を知つてもらう、とても良い機会となっていると感じます。

また、後日施設宛てにいただく感謝文の中に、「介護はとても大変そうだとずつと思つてましたが、介護士の話を聞いて少しでも過ごしやすく安心して暮らせるようにしたいと思いました」「福祉の事は全然知らなかつたけど、私にはおじいちゃんとおばあちゃんがいるので、もし不自由になつたら介護をしてあげようと思いました」などの嬉しい感想も聞かれています。

現在の福祉業界における慢性的な人材不足に對して、外国人介護人材による補充、福祉機器の活用に解決の糸口を見出している現状があります。また、昨今ヤングケアラーという言葉が聞かれるようになり、家庭という閉ざされた空間の中で、若い子供世代が介護の担い手となり本来の活動が制限されてしまう問題もあります。

このような職業講話の機会から、これから社会を担っていく子供たちの職業選択の一助となり福祉業界が発展していくことや、必要な福祉を知ることへ繋がっていく事を願い、今後も活動を続けていきたいです。

～ボランティアさんの活動をご紹介します～

コロナが流行し5年が経ちボランティアの活動がコロナ禍や高齢化等の影響により活動が休止となりボランティアの受入に悩んでいました。そんな中、私たちの大先輩の職員（退職者）とボランティア活動へのお互いの思いが一致し「いい加減の輪」が令和6年6月に発足しました。ぬくもりの里で培われた人間関係の継続と社会貢献として退職されても貴重な人材で社会資源であることからボランティア活動や後輩の指導、拠り所としての役割を担っていただくことなどを目的としました。



活動内容

- ①ぬくもりの里・プレーゲおおひと等での奉仕活動
- ②以前から行っていた体力づくりやコミュニケーションツールとしてノルディックウォーキング
- ③身体や精神をお互いに支え合い得意分野や趣味を生かした活動や情報交換の場
- ④離職された職員の再雇用や紹介を含めた人材確保の働きかけ

ぬくもりの里

いい加減の輪
退職職員のボランティア団体

現在、月2回の定期での奉仕活動や随時での活動も行うことができます。シーツ交換・縫い物・学校での車椅子体験など施設内外を問わず活動しています。「いい加減の輪」が始まり和気藹々とした交流はお互いの刺激となり起ち上げての成果であったと自負しています。今後は年齢の垣根を越えたメンバーの増員ができればと感じています。先輩職員に感謝感激です。



片浜今沢地域包括支援センター



地域包括支援センターでは、地域の自治会や民生委員と圏域内の居宅介護支援事業所および介護サービス事業所の連携強化を目的とした研修を開催しました。テーマは「災害時におけるBCP（事業継続計画）の重要性」です。

研修では、まずBCPとは何か、その基本的な概念や意義について説明がありました。BCPは、災害やその他の危機的状況発生時に事業の継続を保証するための計画であり、高齢者や障がい者などの災害弱者を守るために非常に重要です。次に具体的なBCP策定の手順やポイントについて解説が行われました。例えば、災害時に優先

して保護すべき人々や施設のリスト作成、緊急時の連絡体制の整備、避難場所や避難経路の設定など、実践的な内容が取り上げられました。また、自治会や民生委員との連携強化についても重要性が強調されました。災害時には、地域全体で助け合い、情報を共有することが求められます。自治会や民生委員が家庭の状況を把握し、迅速に支援活動を行うためのネットワーク作りが不可欠です。そして、自治会や民生委員、介護関連事業所の担当者が参加するグループワークも行われました。各グループは実際の災害シナリオを元にコミュニケーションスキルワークの9フレームを活用したディスカッションを行い、課題の洗い出しや解決策を話し合いました。具体的な行動計画の作成を通じて、参加者全員の意識と実践力が向上しました。

春風会では沼津市、伊豆市、伊豆の国市の委託を受け、沼津市内で3地区、伊豆市・伊豆の国市で各1地区の5ヶ所の地域包括支援センターの運営を行っています。

今号ではそれぞれの地域包括支援センターの活動の1部を紹介します。

リハビリ専門職と協働したフレイル予防教室



センターが担当する沼津市愛鷹地区の地域課題の一つとして、自力で外出できる高齢者層と介護サービス利用者の中間層である、「フレイル状態の方」や「フレイル予備軍」の「参加・活動」の場が少ない事があげられます。一方でここ数年の愛鷹地区では、整形外科クリニック、訪問看護所でリハビリテーションを行う介護事業所等、リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士等）が多く在籍する事業所が増えてきました。当センターでは、その「地域の強み」を活かしたフレイル対策への活動ができるのではないかと考えました。

打ち合わせを繰り返し、各事業所が交替で講師を行う「愛鷹フレイル予防教室」を令和6年3月に立ち上げ、隔月で教室を実施しました。10月に地域ケア圏域会議で半年間の評価をおこない、令和7年1月からは毎月1回開催ができる事になりました。

リハビリ職の皆さん、各事業所の特徴を活かしつつ、フレイル予防に役立つ情報や体操等の充実した内容を毎回準備してくださっています。事業所を越えたりリハビリ職同士の交流も生まれ、日常の業務に関する情報交換を行つたり等、新たな地域包括ケアネットワーク構築にもつながっています。

今回の研修を通じて、地域社会全体が災害時の対応力を高めるためにBCPの策定と連携の強化がいかに重要かを再確認しました。参加者からは、自分たちのBCPを見直す良い機会になつたとの声も上がりました。

地区内にある7つの医療・介護事業所のリハビリ職の方々と



9月はあしたかホームが担当。
毎回30~40名の参加があります。

あしたか地域包括支援センター

修善寺地区の地域課題として数年前から「高齢者の孤立化」「閉じこもり」が挙げられています。そのような課題に対して修善寺地区地域包括支援センターでは過去に「買い物ツアーや「ラジオ体操」を軸として支え合いや繋がり、社会参加への取り組みを地域住民や第二層生活支援コーディネーターと共に進め、伴走型支援を継続しています。

令和6年度は、支え合いの仕組みづくりの第一歩として、通いの場空白地に交流の場ができる事を目的に「顔見知りプロジェクト」と銘打つて取り組み始めました。

地域の店舗（うらら修善寺 yan eひろば（レンタルスペ

修善寺地区の地域課題として数年前から「高齢者の孤立化」「閉じこもり」が挙げられています。そのような課題に対して修善寺地区地域包括支援センターでは過去に「買い物ツアーや「ラジオ体操」を軸として支え合いや繋がり、社会参加への取り組みを地域住民や第二層生活支援

コーディネーターと共に進め、伴走型支援を継続しています。

令和6年度は、支え合いの仕組みづくりの第一歩として、通いの場空白地に交流の場ができる事を目的に「顔見知りプロジェクト」と銘打つて取り組み始めました。

どの参加者も笑顔があふれ、「地域の人と交流、貴重な体験ができた」「若い人とふれあえてパワーをもらえた」など高評価でした。日常的に多世代交流の機会が少なく、このような機会を住民自身が欲しており、必要としているという事を再認識しました。

今後も第2層生活支援コーディネーターと共に「顔見知りプロジェクト」を継続しながら、地域住民主体の支え合い活動ができるよう、地域に必要な支援センターを目指していきます。



ース）の協力をいただき、これまでに地域住民（民生委員・区長・住民等）との研修会・意見交換会や地域住民と伊豆総合高校（総合学科）の学生との交流会（高校生の企画によるレクリエーション）や合同学習会（認知症サポートセンター養成講座・認知症すごろく）など三回の「顔見知りプロジェクト」を開催しました。



『法人専門委員会からの活動紹介』居宅・地域包括委員会

以前から沼津市の地域包括支援センターで取り組まれていますが、遅ればせながらしたが、遅ればせながらしたか地域包括支援センターさんからノウハウを学び、いざ導入してみると高齢者の皆さん得意と能力に私達の方が驚かされました。1年目の取り組みで、全日本ノルディック・ウォーキング連盟指導員さんの協力を得て、外歩き2kmコースを約30名で歩く事が出来ました。参加を希望された80代の女性は家族から「無理なんじゃない?」と言われ、その心配をはねのける為、お一人でコースを歩く練習を行い歩ける事を証明して参加されました。変形性膝関節症の70代の女性は歩幅計測において25mを通常60歩の所、ポールを使用する

と53歩で歩き、スピードも速く歩幅も広くなることでご自身もその効果を実感されました。運動効果だけでなく、人と人とのつながりや役割を持つて参加して頂く事を大切にしています。体験会では副班長の役割をボランティアさん達に担つて頂き、主体的に参加できる仕組みづくりや、山間部へは送迎を行う等地域課題へも取り組んでいます。



伊豆中央ケアセンター

ご家族の声



伊豆中央ケアセンターをご利用されておりました、ご遺族様から、お手紙を頂きました。今後も職員の励みとさせて頂きます。

私は伊豆市に住んでおり夫の両親と叔父の三人を見送った。合計23年の介護生活であった。看護師であつた私は伊豆中央ケアセンター（以下、ケアセンター）のお陰で仕事を続けることができ、今でも感謝で一杯だ。

義母の認知症が進み、家族の手に余るようになつた頃、介護保険制度がスタートした。すぐに天城デイサービスやショートステイを利用した。最後は

認知症専門病院でがんのため亡くなつた。義母を見送った後義父が、やがて叔父と続いて身体機能、認知機能が低下した。私の仕事の関係で泊りがけの出張も多く、多忙の時は2人をほぼ毎月2週間のショートステイをお願いした。義父はやがて持病の喘息が悪化し、近在の病院で亡くなつた。

私が最も心に残つている叔父とケアセンターの関わりを伝えたいと思う。

叔父は義父の弟で生まれながらに聴力障碍があり、言葉も話せなかつた。しかし大家族の中で大切に育てられみんなに愛されていたためか障害者の暗さやひがみはない人であつた。嫁の私が落ち込んだり暗い顔をしているといつも笑顔で「大丈夫だよ」というように頷いてくれる「癒しの人」であつた。いつしか私はこの人を最後まで面倒を見る気持ちになつていて。病状の変化であちこちの病院や老人保健施設を転々とし、最終的にケアセンターの特養に入所できた。入所後状態が悪くなり救急車で順天堂病院へ行つたが、高齢のため手術できず老人病院へ行くよう指示された。ケアセンターに連絡したら、良かつたらケアセンターで看取りますとワゴン車で迎えに来てくれた。

状態の安定しない叔父をスタッフ全員で介護してくれてありがたかつた。

聞こえず、話せない叔父に笑顔を向け、頭をなでたりほほを撫でさすつたりと心温まるコミュニケーションを取り続け、叔父もうれしそうに頷いていた。家族がいつ行つてもきれいに髭剃りされさっぱりした顔で、衣類も汚れておらず、体動で傷付かないようなベッド柵の工夫もあつた。何よりもうれしかつたのは「ろうあの高齢者」と一括りにしないで、叔父を一人の人間として大切に扱つてもらつたことだ。

入れ替わり面会に来る家族のために絵入り、写真入りの連絡帳も感激だつた。叔父は92歳で旅立つた。順天堂病院から一年半後であり、静かな旅立ちであつた。

私は長年看護管理者をしていたためどこに行つてもその視線で見る癖がある。ケアセンターはいつも清潔で臭気もなく安全性快適性に優れている。中でもスタッフ一人ひとりの心のこもつた対応は素晴らしいと思う。それらはすべてケアセンターの職員教育のたまものであり、職場風土として根づいたものである。先日ケアセンターに行つた折、偶然春から新入職員になるという人にお会つた。この人もやがて教育を受け、ケアセンターの中で伝統の心温まる介護スタッフへと成長していくのだととても嬉しく思つた。

介護事故の再発防止に向けて 介護事故防止委員会の開催



法人では、昨年11月1日に第1回目となる法人介護事故防止検討委員会を実施しました。この委員会は、法人内施設で起きてしまった転倒骨折などの介護事故に対して各施設で共有し、利用者に迅速かつ最善な対応ができるよう、事例の再検討・再調査することによって安全安心なサービスの提供と介護事故の再発防止に向けた取り組みができる事を目的に開催しました。

出席者は、石川理事長、各施設の施設長、介護主任、相談員、看護師など計37名が参加しました。今回は、ぬくもりの里、みはるの丘浮島から各2事例の介護事故報告がありました。報告後の質疑応答では、活発な議論が交わされました。各施設ともに同じような状況で、同



じような介護事故経験があり、「自分たちの施設ではこのような対策をしている」といった情報共有もでき、非常に有意義な時間となりました。転倒事故等を、介護職員だけではなくそれぞれの立場の職員全員で事故原因を徹底的に分析し、環境的要因、施設設備の問題、作業内容や職員の動的動き、職員の数的配置状況、情報の共有化の問題や利用者の精神状況・排泄状況など多方面から原因を究明することができたと思います。

次回は、令和7年1月23日に予定されています。会議冒頭に石川理事長の言葉にもあつた「介護事故に対する予見性」を高め、法人全体で介護事故防止に今後も取り組んでいきます。

今年度プレーゲあしたかでは地域活動委員会が発足しました。夏場は地域で清掃活動をしていましたが、委員会内で「他に地域貢献できる活動はないか?」と検討した結果、地域の「見守り隊」に参加し、登校時の小中学生の交通安全に寄与する活動を始めました。

あしたかホームからプレー�あしたかの間に見通しの非常に悪い交差点があり、その横断歩道が通学路に当たります。朝の登校時は、車の往来も多くて危険な箇所です。以前より「見守り隊」として、民生委員さんが交通誘導していますが、毎日ではないので、そのない日に週1~2回のペースで地域活動委員の職員を中心に交通誘導を現在しています。

時間は7時20分~8時までです

プレーゲあしたか 交通安全

地域見守り隊への参加



が、7時40分頃が登校のピークを迎えます。職員が「おはようございます! いつてらっしゃい!」と声をかけると、多くの小中学生から「おはようございます! 行ってきます!」との元気な声が返ります。

今後は、職員だけではなく多機能の利用者や特養の入居者も参加し、地域交流が深まるようにと考えています。まだ始めたばかりの活動ですが、今後も継続し、地域密着型の事業所として少しでも地域貢献努めていきます。

積み木の寄贈

～沼津市立高尾園×保育園との交流～



沼津市立高尾園では平成27年度より居場所作りと作業の一環として、株トップワークスさんから角材を提供して頂き、月々金の午後に角材を紙やすりで磨き、積み木の作成に取り組んでいます。令和2年1月頃より新型コロナウィルスの蔓延に伴い、保育園への寄贈を中断していましたが、令和6年度より本格的に活動を再開し、沼津市以外の保育園にも積み木を納品して、園児や先生方から好評を頂いています。

令和6年9月30日には沼津市内にある光長寺保育園へ積み木400

個を寄贈させて頂きました。これをきっかけに、保育園の園長先生から園児が使用している木の椅子を磨く作業の依頼を受けました。

11月中旬に保育園より椅子5脚

を預かり、高尾園職員と利用者2名で協力して、研磨作業を行いました。木の皮が剥がれて棘が出ている箇所等をすべて磨き、ニスを数回塗つて新品に近い状態に生まれ変わりました。

研磨作業に参加している利用者様からは「大変だけど、やつたら楽しくなってきた。子供たち喜んでくれるかな。」との感想があり、園児の笑顔が利用者様のやる気の源となる気の源となつています。



協議会の歳末助け合い助成事業として4年ぶりにあしたかホームディサービス棟で餅つき大会を開催しました。

当日は日頃からお世話になつている地域の皆さま、ボランティアの皆さまをお招きして、入所者が見守る中、石川理事長、職員が交代で6臼つき、子どもたちに杵と臼を使って実際に餅つきの体験をしていただき、お年寄りとの交流を楽しんでいただいています。

また、ボランティアの皆様にご協力いただき、ついたお餅をきなこ、あんこ、おろしもちにして参加者の皆さんに召し上がっていただき、お餅にあんこを入れて丸めて参加者の皆さんにお持ち帰りいたしました。

来年も入所者、地域の皆さまボランティアの皆さまと一緒に楽しい時間を過ごし地域との交流が出来る餅つき大会を企画していきます。

の方からは「お正月が来たみたいだね。おもちがおいしかった」とひと足早いお正月気分を味わつていただきました。

地域の皆さまからは「久しぶりにみんなで餅つきに参加することが出来てとても楽しかった」、「子どもたちは初めておもちをついて楽しかった。来年もまた来たい。」という感想をいただき、入所

餅つき大会

～あしたかホームで地域の方と一緒に～



生活発表会

あまき認定こども園

12月に生活発表会があり、年長組では子ども達が作り上げた創作劇を披露しました。今年は天城ディサービスとの交流をたくさんしてきたため、どんな劇が良いか話し合うと『おばあちゃん』というキーワードが多く聞かれたそうです。そこで、交流の中でお年寄りから教わったいろいろな知恵袋を劇にすることになりました。「おばあちゃんてこういう話しさだよね」「こう言った方がいいんじゃない?」等、

自分達で何度も修正したそうで、生きた台詞になっていました。

発表会当日には玄関に交流時の写真も展示したので、劇



と日々の保育の繋がりをより理解していただけたかと思います。写真の方も皆さん熱心に見ていてくださいました。

少子化に伴い、園児数はとても少なくなっていますが、その分融通が利くので、ちょっとした時間にディサービスに出向いて交流することができています。子ども達はお年寄りからたくさんことを学ぶことができましたし、お年寄りに対する優しい気持ちも育っています。そんな複合施設の素晴らしい雰囲気を劇にして保護者の皆さんに見ていただくことができ、とても良い発表会になったと思います。



なかいす認定こども園

1年の中でも大きな行事、発表会が12月初旬に行われました。開園当初は0歳児から発表会に参加していましたが新型コロナウイルス感染症をきっかけに行事の見直しを行い、3歳児以上が参加しています。なかいす認定こども園では、各学年年齢に合ったお話遊びと歌、合奏を行います。ここ数年のお話遊びは、各クラスの担任が絵本や紙芝居から1学期からの遊びを子ども達の意見をくみ取りながらオリジナル作品にアレンジし表現しています。3・4歳児の時に発表会を経験した5歳児は運動会が終わるとお話遊びの話題を自然と子ども達が出し合うようになります。お話遊びから子ども達が参加し、練習を重ねるごとに「セリフはこの言い方がいいんじゃない?」「山の絵があったほうがいいから皆で描こうよ」など劇中の台本、舞台構成まで担任に提案する場面もあり、さすが5歳児だと感じました。今年の5歳児は1組がももたろうをこども園の畑で取れたそら豆に変え

＊＊＊＊

「そらまめたろう」にアレンジ、出てくる鬼が野菜嫌い、でも新鮮な野菜を食べると野菜好きになるという内容、2組は発表会を作り上げる過程をお話遊びとして園の生活を伝える「六仙の里のどきどき発表会」先生役、生徒役に分かれリアルな園の様子を伝え、楽しんでもらう内容でした。どの学年も発表会を通して子ども達の表現力、協調性などが育ちそれを保護者に伝えることで保育の取り組みを高く評価していただきました。子どもも保護者も保護者も大満足の発表会となりました。



地域交流平沼サロン in 浮島保育園

11月7日、浮島保育園を会場にして私たちディサービスセンターみはるの丘の理学療法士と介護士による平沼いきいきサロンを開催いたしました。このサロンは平沼自治会主催で地域住民のつながりを深め新しい刺激と楽しみを提供することを目的として考えています。

始めに、理学療法士による体操から行いました。呼吸法やストレッチなど、普段使わない筋肉を動かす幅広い動きを取り入れた体操は参加者の皆様から「どうやってやるの?」、「難しいね」、「自分の体がこんなに硬いとは」などの意見が聞かれました。それでも、健康増進や体力保持のため一生懸命に体を動かし、「とても気持ちが良かった」「体が軽くなった」等の声も聞かれ、健康への意欲と関心の高さが見受けられました。



次に、介護士が中心となってさつまいも掘りゲームを行いました。

20秒の間にトングを使い、隠されているさつまいもをどれだけ沢山取れるかを競い合いました。チャレンジをされている方、周りで応援されている方、それぞれの笑顔が素敵で印象的でした。

体操やゲームを通じて参加者同士の交流も深まり、和やかな雰囲気の中で楽しい時間を過ごす事が出来ました。

ディサービスセンターみはるの丘では、このような地域交流を通じて皆様が地域社会との繋がりを感じ、より充実した日々を過ごしていただけるよう、今後も積極的に参加してまいります。

また地域の皆様にも春風会の活動を知って頂きさらなる交流の機会を増やしていきたいと考えております。

●春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-1166 (代) FAX (055) 967-3566

●特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター

〒410-2402 伊豆市大野304
TEL (0558) 72-8111 (代) FAX (0558) 72-7297

●特別養護老人ホームぬくもりの里

〒410-2315 伊豆の国市田原1259-29
TEL (0558) 76-6700 (代) FAX (0558) 76-7511

●特別養護老人ホームみはるの丘浮島

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3355 (代) FAX (055) 969-3385

●障害サービス 生活介護 沼津虹の家

〒410-0302 沼津市東椎路1742-1
TEL (055) 967-2220 (代) FAX (055) 967-3566

●障害サービス 生活介護 あおばの家

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-429
TEL (0558) 76-6702 (代) FAX (0558) 76-6702

●障害サービス 就労継続支援B型 もぐせい苑

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-47
TEL (0558) 76-6755

●原高齢者福祉センター

〒410-0312 沼津市原1200-3
TEL (055) 968-4510 (代) FAX (055) 968-4511

●ふれあいディサービス (ディサービス一般型)

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-3380 (代) FAX (0558) 83-3380

●天城放課後児童クラブ

〒410-3213 伊豆市青羽根47
TEL (0558) 87-1080

●中伊豆放課後児童クラブ

〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ
TEL (0558) 83-2911

●救護施設 沼津市立高尾園

〒410-0001 沼津市足高156-1
TEL (055) 921-5722 (代) FAX (055) 921-5723

●ケアハウスはるかぜ

〒410-0318 沼津市平沼929-1
TEL (055) 969-3382 (代) FAX (055) 969-3385

●小規模多機能型施設 北狩野ケアセンター

〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地
TEL (0558) 72-8811 FAX (0558) 72-8860

●地域密着型特別養護老人ホーム プレーゲあしたか

〒410-0302 沼津市東椎路1639-1
TEL (055) 967-3400 (代) FAX (055) 967-3401

●地域密着型介護老人福祉施設 プレーゲあおひと

〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9
TEL (0558) 76-7300 FAX (0558) 76-7299

●障害サービス グループホーム なぎの家

〒410-2315 伊豆の国市田原1258-437
TEL・FAX (0558) 77-1017

●地域活動支援センター サポートセンター絆

〒410-2315 伊豆の国市田原1259-293
TEL・FAX (0558) 77-1221

●複合施設 ふらっと月ヶ瀬

〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1

●あまぎ認定こども園

TEL (0558) 85-2030 FAX (0558) 75-8880

●あまぎディサービス (ディサービス一般型)

TEL (0558) 85-0816 FAX (0558) 75-8201

●就労継続支援B型 事業所プラム (障害サービス)

TEL (0558) 85-1919 FAX (0558) 75-8201

●プラムカフェ

TEL (0558) 85-2551 FAX (0558) 75-8201

●片浜・今沢地域包括支援センター

〒410-0874 沼津市松長12-3
TEL (055) 969-7050 FAX (055) 968-2177

●伊豆市修善寺地区地域包括支援センター

〒410-2414 伊豆市本立野531-1
TEL (0558) 99-9301 FAX (0558) 99-9302

●なかいづ認定こども園

〒410-2505 伊豆市八幡282-1
TEL (0558) 75-2810 FAX (0558) 75-2811

●はら居宅介護支援事業所

〒410-0311 沼津市原町中2-7-11
TEL (055) 941-8333 FAX (055) 941-8334